

立沢里山

平成20年12月7日 第14号

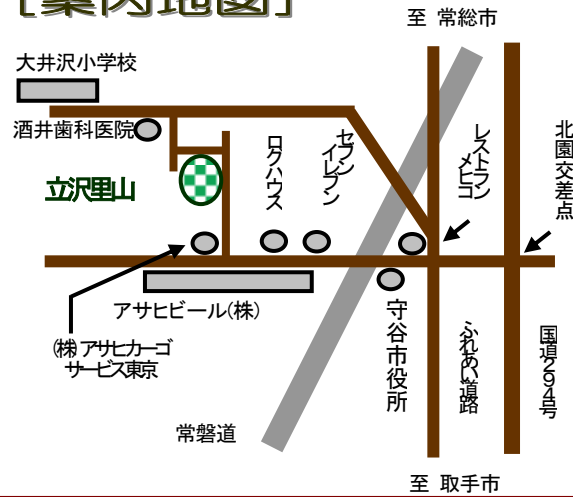
発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
 問い合わせ先：事務担当
 須賀（守谷市役所内 45-111 内線 222）
 立沢里山ホームページ
<http://www.geocities.jp/tatuzawasatoyama/>

ボランティア募集
 もなたも一献に楽しんで！

～目次～

- 1 里山第二次自然再生構想の検討
- 2 自然再生構想の具体化へ
- 3 自然環境に親しむ環境講座
- 4 竹林の切り出し：炭焼きの準備
- 5 小学校の収穫祭

【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします

denen21@hb.tpl.jp

清野



2 自然再生構想の具体化へ

第二次自然再生構想はまず、当面する課題となっている老朽化した木道の扱いが重要であることから、小川沿いへのルート変更のために、河川掘削と併せて畦道の盛り土作業を行うことにしました。今年の稲刈りも終了したことから、重機を入れて抜本的に改造することにしました。



たまたま、市内の会社が土日ならと重機（バックホウ）を貸してくれることになり、10月末の例会に前後して実施することになりました。

1) 池の浚渫作業

全体の地盤が悪く、重機の侵入が困難であることから取り合えず手前の池を浚渫することにしました。

10月25日（土）午前中は池の掘削です。埋まってしまったとはいえ元来、池は最も地盤の低い箇所で作ってあるものなので、重機を近づけるだけでも大変です。

かつて、池の掘削に挑戦して重機が沈没して身動きできなくなるという苦い経験もしています。皆の知恵を出し合って、ホテルの息する箇所を避けて湿田の中に板（コンパネ）を敷き詰めて何とか足場を確保できました。ただ、板は支持力は付きますがスリップしやすいのが難点で、アームを使って固定したり、引き上げたりとかなり難度の高い操作が必要でした。

掘削作業に入ると、さすがに重機の力はすぐく一気に掘り上げてしまいましたが、ミニコンボなのでアームが池の半分くらいしか届きません。対岸の半分は手作業で掘削することになりました。これまた重労働でしたが、その分、カエルなどのために池の中に中島を残すという景観にも配慮した粋な施工ができました。

近くのお寺からハスを移植して道行く人に楽しんでもらえれば素晴らしいスポットに生まれ変わりそうです。

2) 畦道づくり

午後からは河川浚渫と畦道の盛り立て作業です。こちらも長年の湿地状態で重機を入れれば沈没するのは明白な地盤条件です。前週に草刈、測量や横断側溝の設置を行い、刈った葦や小枝をびっしりとルート上に敷き詰めて基礎地盤改良を行い、その上を移動するように準備をしました。

それでも泥炭地と同じで重機が乗るとジワーと水がしみ出てきて、沈下や転倒の危険性はありましたが、ゆっくり移動すれば何とかかなりそうと慎重に進入しました。

小川の掘削を併せて進めたので、周辺の既存田んぼを含めて排水条件は大幅に改良されました。下流から掘削して二日間で何とか川沿いの畦道盛り立ては終了しました。畦道は見晴らしがよく、子供たちが走り回るには絶好の場所になりそうです。

ところが夕方、重機を手前に戻そうとしましたが、その帰り道が大変なことになりました。盛り立てた土の上に板を敷いて、その上を移動しようと考えていましたが、あまりにも土壌条件が悪く、沈み込んでスリップし、数十分泥沼で格闘するも全く進めなくなってしまいました。また過去の失敗を繰り返しか、これでは一日かかっても帰れず夜の宴会にも間に合わないかと正直あせりました。

実は夕方から里山の会の打ち上げ懇親会が予定されていたのです。

しかし皆と酒を飲みたいとの我々の強い信念が上回りました。

よく見ると湿田には数十年にわたり繁茂した葦、ヨシが厚く積み重なっており、瞬間的なら沈下する前に走りきれのではないかと思案しました。盛り土の上を通るのはあきらめて、湿原のど真ん中を突っ切ることにしました。前走はブレード（排土板）が邪魔になるので草原をなぎ倒すために後ろ向きにし、スロットルを全開にして草むらに突撃しました。ところが2m以上の背丈の葦が視界を遮って前に何があるのか、方向さえもわからなくなります。かなりの時間が経過したような気がしたその瞬間、



1 里山第二次自然再生構想の検討

いわゆる第一次自然再生事業は、当初のゴミ捨て場状態だった耕作放棄水田のゴミ拾いに始まり、田んぼの再生や上総堀による井戸掘り、木道などの基盤整備を実施し、小学校での稲作体験（田んぼの学校）までとり組んできたことです。

その後、「里山祭り」の実施により幅広く一般市民の参加に拡大したり、規約を制定するなど、新たな段階を模索してきました。

一方、10年近い時間の経過の中で木道など施設の老朽化が進み、維持管理が問題になってきたこと、外来種の持込、会員の高齢化などいくつかの課題に直面してきました。

そこで、今後の里山管理や全体イメージを皆で検討し、新たな段階の里山再生に向けて抜本的に検討を行ってきました。

湿原の中の木道は腐ってきてこれ以上管理も困難な状況で、葦が伸びると見通しが悪く子供たちにも危険なことから、市道から見渡せる小川沿いの畦道を盛り立ててルート変更することで今春現地調査と打ち合わせを行いました。

手前の池も埋まってしまって、同じように葦が伸びると見通しも悪く危険な状態でした。葦が優勢になりすぎ、小川や池が土砂で埋没してザリガニや小型の魚類しか生息できない、ある種の閉塞状態で遷移の行き止まりつつある段階とも考えられます。そろそろ人為的な攪乱が必要な時期と考えました。当面して本年度は池や小川の浚渫、畦道の盛り立てを行うことにしました。



突然視界が開け、我々は無事泥沼地獄から生還することができたのです。思わずヤッターと歓声を上げてしまいました。その夜のビールのおいしかったこと！！

3) 土手の取り付け

現場条件が悪いために、土日の二日間では小川沿いの盛土作業だけで土手への取り付け部分までは手が廻りませんでした。

ところが重機運搬用のトラックが日曜は使えないとの電話が入り、翌日に返却することになりました。ここまでやったら、最後までやり抜くしかありません。翌日は平日でしたが休暇をとって早朝から作業を継続することにしました。幸い朝から抜けるような秋空で、土手への取り付け完成まで後一歩です。

作業途中に隣接する田んぼの地主さんも見えて、境界確認や作業計画についても打ち合わせることができました。

ところが、最後に難関がまたまた待っていました。土手の近くは地盤が高くなり土質も良くなるはずなので、作業後に足場を盛り立てて自力で上がる算段でしたが、山際の地下水の染み出しがあり、かなり含水率が高く、すぐにスリップして進めなくなりました。板や枝、草などをクローラの下に引いてアームを使って引き上げようとしても上げられません。

四苦八苦していて突然極めて簡単なことに気が付きました。運搬用のトラックに重機を積み降ろすための鋼製梯子があったのです。

早速会社へ電話して午後一番で返すのでトラックを貸してくれと連絡しました。さすがに道具です。結果いとも簡単に土手の上に這い上がることができました。

感謝感謝、御礼の気持ちを込めて重機は川沿いできれいに水洗いし、燃料も満タンにして無事返すことができました。

(重機運転 S野記)



3 自然環境に親しむ環境講座



守谷市では都市開発で残された里山を貴重な地域資源として守ろうと、市内各地で里山活動などが盛んに行われています。

今年7月から、守谷市主催の生涯学習講座の一環として5回にわたり、市内外の講師を迎えての講義、市のバスを使って市内の里山などの現地視察、意見交換会などが行われ、多くの市民が熱心に参加しました。

11月8日(土)で最終講義が行われ、その後市内の活動の方向性などについて、活発な討論が行われました。その後、懇親会が行われ、歴代の講師も参加して意見交換が行われました。

もっと幅広い市民が自由に参加できる場や組織を

立ち上げてはどうか、勉強会は来年度も継続したい、市内の活動団体が相互連携する体制が必要ではないか、など多くの意見がでてきました。

そこで、自主学習の継続や、市内関係団体の相互協力などをめざして、「守谷里山ネットワーク(仮称)」の設立を検討することとなりました。

講座内容			
時期	講師		課題
7月	五木田悦郎	自然調査団長	守谷の自然
8月		現地視察	市内の里山めぐり
9月	森 敦	農学博士	里山の生態系と役割
10月	高橋武夫	環境アドバイザー	平地林・竹林保全
11月	清野 修	ビオトープ管理士	市民が担う環境保全

4 竹林の切り出し：炭焼きの準備

昨年のセミナーで茨城県自然博物館内に製作した炭窯「博楽玄窯」は、参加者に解放されており、「立沢里山の会」として3月末に使用することで日程を決めています。

里山の会としては、まず手始めとして竹林の整備と竹炭、竹酢液づくりを併せて取り組むことにしました。かなり大きな炭窯なので、100本近い材料が必要です。作業を計画的に行う必要があります。

幸い海老原会長が自宅の竹林を開放してくれることになりました。

切り出して3ヶ月以上乾燥させる必要があるので、12月6日(土)に作業を行いました。竹は切るの簡単ですが、上に小枝が密集して絡まっているので倒して枝を払い、定尺に切り出すのが結構の作業です。かなり切り出したと思っても竹林の下を見る限りあまり変化がないような気さえしてきました。

一日奮闘して何とか木漏れ日が入る程度の密度(傘をさせる間隔)まで間伐することができましたが、竹林全体ではまだ半分くらいです。炭材としては十分に確保できたので、残りは次回にしました。

竹はちょうど年末なので門松や花器の製作に最適です。

小枝は集めておいて竹箒製作や水路の土留材などにも使えます。

地主さんには山芋やミカンなどをたくさん差し入れに頂きました。来春はタケノコを自由に取ってとのうれしい言葉もあり、これまた楽しみです。

夕方、忘年会を兼ねて近くの居酒屋に集合しました。

斜面での慣れない作業だったので、結構疲れましたが、来年の炭焼にむけて何とか段取りも進みました。



5 小学校の収穫祭

市内の小学校では秋の収穫祭がそれぞれ行われています。今回は「立沢里山の会」として例年子供たちの稲作体験を受け入れていることから、11月8日(土)に御所が丘小学校の収穫祭「御所祭り」に来賓として招待されました。

来年は今の小学4年生が里山の稲作体験に参加する予定なので、歓迎の挨拶をしておきました。

「御所祭り」では子供たちが市内里山の自然観察会の報告や地球環境問題など自主研究の発表や、ドングリなどの工作展示などを熱心に行っており、父兄も大勢参加していました。

昼食は芋煮などを校庭や中庭でいただきました。

また父兄会「親父の会」も焼き芋などの作業をしていました。さすがに小学校のPTAは若い親が多いので、来年は里山整備にも参加してもらおうのも重要と感じました。

